



T.Mori

## THE HANSHIN CUP

## 第20回 阪神カップ (GII)

1着 本賞 67,000,000円  
付加賞 1,162,000円

2着 27,000,000円  
3着 17,000,000円  
4着 10,000,000円  
5着 6,700,000円  
付加賞 332,000円  
3着 166,000円

レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳57kg、4歳以上58kg、牝馬2kg減

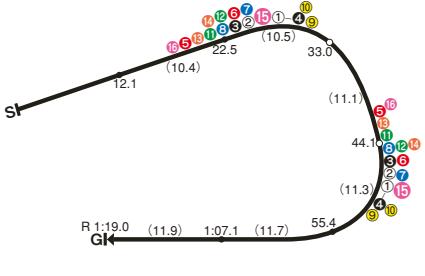
2025.12.27 阪神 晴・良 芝1400m (国際) 特指

順位	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー	上り	馬体重	単勝オッズ	調教師	レーティング
						(着差)	通過順位 (600m)	(増減)				
1	⑯	ルガル	牡5	58	鮫島克駿	R1:19.0	5-4	33.9	532(+0)	7.1(3)	杉山晴紀(栗東)	114
2	⑯	ナムラクレア	牝6	56	C.ルメール	ハナ	10-10	33.2	484(+6)	1.9(1)	長谷川大(栗東)	109
3	⑦	フォーチュンタイム	牡4	58	岡野大成	1	6-6	33.9	514(+0)	8.1(4)	吉岡辰弥(栗東)	111
4	③	グレイティングリーン	牡7	58	吉村誠之助	2	8-8	34.0	504(+12)	152.0(3)	池江泰寿(栗東)	107
5	①	エインシングエンサー	牝5	56	川又賢治	クビ	4-4	34.7	478(-2)	25.8(8)	吉村圭司(栗東)	107
6	②	ヨシノイースター	牡7	58	内田博幸	ハナ	6-6	34.3	496(+0)	23.7(7)	中尾秀正(栗東)	107
7	⑪	ダムノマッキンリー	牡4	58	C.デムロ	アタマ	12-13	33.6	468(-8)	9.2(5)	藤原英昭(栗東)	107
8	⑧	アスクワントタイム	牡4	58	西塚洸二	1½	10-10	34.0	460(+10)	348.0(10)	梅田智之(栗東)	107
9	⑬	ミッキーコージャス	牝5	56	横山和生	¾	14-14	33.7	456(-6)	22.8(6)	安田翔伍(栗東)	107
10	⑥	シュターレルヴィント	牡5	58	高杉吏麒	クビ	8-8	34.3	456(+6)	90.3(0)	矢作芳人(栗東)	107
11	⑨	ジューンブレア	牝4	56	武 豊	クビ	1-1	35.9	488(-2)	6.4(2)	武 英智(栗東)	107
12	⑩	グロリアラウス	駆4	58	F.シェル	2	2-2	36.1	512(+10)	29.5(9)	斎藤崇史(栗東)	107
13	④	カリボール	牡9	58	富田 晓	ハナ	2-2	36.1	512(+14)	310.4(9)	西村真幸(栗東)	107
14	⑯	モズメイマイ	牝5	56	田口貴太	2	16-15	34.3	478(+2)	202.7(9)	前川恭子(栗東)	107
15	⑭	ショウナンサンダード	牝3	55	松若風馬	1½	12-10	35.0	454(+2)	114.0(0)	松下武士(栗東)	107
16	⑤	シャドウフューリー	牡5	58	泉谷楓真	1	15-15	34.8	494(+8)	134.5(0)	杉山晴紀(栗東)	107

単勝⑯10円(3%) 複勝⑯200円(3%) ⑯110円(1%) ⑯210円(4%) 枠連⑯-⑯610円(2%)

馬連⑯-⑯670円(2%) ワイド⑯-⑯330円(2%) ⑯-⑯1,000円(11%) ⑯-⑯360円(3%)

馬単⑯-⑯1,650円(6%) 3連複⑯-⑯-⑯1,840円(4%) 3連単⑯-⑯-⑯7,940円(21%)

通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m  
33.0 - 44.1 - 55.4 46.0 - 34.9

## アラカルト

- ・鮫島克駿騎手は阪神C初勝利。JRA重賞は25年3勝目、通算14勝目
- ・杉山晴紀調教師は阪神C初勝利。JRA重賞は25年4勝目、通算25勝目
- ・ドゥラメンテ産駒はJRA重賞通算33勝目
- ・勝ちタイム1:19.0は23年ウインマーベルが記録した1:19.3を更新するレースレコードで、21年阪急杯でレステンシアが記録した1:19.2を更新するコースレコード
- ・ルガルの馬体重532kgは本競走優勝馬の最高馬体重記録
- ・馬連670円、ワイド330円、3連複1,840円、3連単9,540円は各式別における本競走の最低払戻金額

## ルガル *Lugal*

牡 青鹿毛 2020.3.7生  
北海道浦河町 三嶋牧場生産  
馬主・江馬由将氏 栗東・杉山晴紀厩舎  
馬名意味・王(シュメール語)

		アタブIRE系 F20	
ドウラメンテ 鹿毛 2012	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo	マンファスIRE
	アドマイヤグルーヴ 鹿毛 2000	サンデーサイレンスUSA	エアグルーヴ
アタブIRE Atab 鹿毛 2012	New Approach 栗毛 2005	Galileo	Park Express
	Moon's Whisper 黒鹿毛 1999	Storm Cat	East of the Moon

5代までのインブリード: Miesque S4×M4 Northern Dancer M5×M5

## INTERVIEW

三嶋健一郎 東務(三嶋牧場)

1年3カ月ぶりの勝利は嬉しかったです

課題であるスタートを無事に出てくれたので前半は安心して見ていましたが、最後はナムラクレアの急追に「何とか粘ってくれ！」という思いだけでした。24年スプリнтерーズS以来、1年3ヵ月ぶりの勝利は嬉しかったですし、江馬オーナーにも喜んでいただけて良かったと思います。再び重賞を勝てたこの勢いに乗って、26年も頑張ってくれることを期待しています。



産駒としては、異色の存在といえる本馬は3歳時から短距離戦で活躍。4歳1月のシルクロードSで重賞初制覇を果たし、秋のスプリンターズSでスプリント界の頂点へ駆け上がった。その後は出遅れなども影響してひと息の走りが続いたものの、11月の京阪杯は59kgの斤量を背負つて2着。そんな前走で示した“復調の兆し”をスプリンターズS以来の勝利に繋げ、5歳のシンズンを締めくくった。

父ドゥラメンテ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首9戦5勝(日本ダービーG1、皐月賞G1、中山記念GII、ドバイシーマクラシック、首G12着、宝塚記念G12着)、最優秀3歳牡馬、17年から供用、21年死亡。23年日本リーディングサイヤー、22年日本2歳リーディングサイヤー  
〔代表産駒〕リバティアイランド(桜花賞G1、オースクG1、秋華賞G1)、タイトルホルダー(菊花賞G1、天皇賞(春)G1、宝塚記念G1)、スターズオンアース(桜花賞G1、オースクG1)、マスカレードボール(天皇賞(秋)G1)、エネルジゴ(菊花賞G1)、ドゥレツツァ(菊花賞G1)、ルガル(本馬)、シャンパンカラー(NHKマイルC G1)、ドゥラエレーデ(ホープフルS G1)、ヴァレーテラルナ(JBCレディスクラシックJn I)、アイコンテーラー(JBCレディスクラシックJn I)、他に重賞勝ち馬多数

母アタブIRE

英4戰1勝。19年輸入

ラージン Raajin(17 驅父Raven's Pass)英3戦0勝

ジャドワル Jadwal(18 驅父Mustajeeb)英、首18戦3勝

トウシンイマジ(19 牡父Mukhadram)持入 中央2戦0勝 地方30戦6勝

**ルガル** 本馬(20 牡父ドゥラメンテ)中央17戦5勝(スプリンターズS<sub>6</sub>Ⅰ、阪神C<sub>6</sub>Ⅱ、シルクロードS<sub>6</sub>Ⅲ、橘S・L、京阪杯C<sub>3</sub>Ⅲ2着2回、葵S<sub>6</sub>Ⅲ2着、

第11章

獲得總賞金379,210,000円

ウイスアリーブ(21 牝父ドゥラメンテ)中央4戦

アフロガル(22 牡父トウラメシテ)地

ティクリス(23 牝父王)  
(24 牡公孫(ルルイ))

(25 牛久コントレイル)

#### 祖母トーンズ白いスパー Moon's Whisper

祖母云 プスツル  
アメル丸商 不出走

ハムサットエルサマル Hamsat Elqamar(05 牝父Nayef)英1勝、ラビオ  
サフィオーレ Rabiosa Fiore(クリテリウムフェミニーレ・イL2着)の母、  
レイジオブバンビ Rage of Bamby(ロックフェルS・英G23着)の祖母  
ムタファーカー Mutafaakir(09 騰父Oasis Dream)英5勝

アタブIRE(12 前出)

**イブン・マリク** Ibn Malik(13 騎父Raven's Pass)英、首3勝(ガルフードス  
プリント、首L、ヨーロピアンフリーH、萬L、ヴィンテージS、萬G、2着)

**G-I馬の底力で熾烈**

先に抜け出したルガルに、単勝1・9倍と圧倒的な支持を集めた前年(京都競馬場で実施)の優勝馬ナムラクアが鋭く襲い掛かったゴール前。1着賞金が6700万円と少し高めに設定されている短距離路線のスーパーGⅡ・阪神Cは、実績上位の2頭が熾烈な攻防を繰り広げた。2つの競馬場にまたがつての連覇、また、牝馬としては史上初となる5年連続のJRA平地重賞制覇<sup>④</sup>まであと一歩と迫ったナムラクアだが、ハナ差で決着した接戦を制したのはルガル。出走馬中唯一のG-Iウイナーが底力を示し、1年3ヶ月ぶりとなる勝利を飾った。

9月のスプリンターズSでアタマ差

の2着に逃げ粘ったジューインブレアが、対抗候補と目されたこの日も軽快なダッシュで飛び出して先制。スピードに乗つてからは10秒台のラップを連発して風を切る。課題のスタートを決めたルガルの鮫島克駿騎手は離れた4、5番手につけ、前走のオーロCでオーブン初勝利を挙げた4歳馬、4番人気の支持を集めたフォーチュンタイムがその直後を追走。対してナムラクレアは促し気味の手応えで中団を進んだ。ハイペースで飛ばしたジューインブレアは、ついてきた好位勢は振り切ったものの、残り200㍍地点で失速。馬場の外めに持ち出されて加速にかかるルガルが先頭に躍り出る。直線に向

G I馬の底力で熾烈な競り合いを制す